あゆはかみそり　　滋賀県

むかし、ある山のお寺に和尚さんと小僧さんがいました。

和尚さんは、いつも台所で、こっそりあゆを焼いて食べていました。あるとき、小僧さんが、それを見つけて、和尚さんに聞きました。

「和尚さん、和尚さん。和尚さんが食べておられるそれは、なんですか」

和尚さんは、あわてて、

「これか、これはおかみそりだ」とごまかしました。小僧さんは、しかたなく、

「はあ、おかみそりですか」といいました。

ある日のこと、和尚さんは、小僧さんに、

「今日は、小田原まで行くから、ついて来い」といいました。和尚さんは、大きい馬に乗っ行きました、小僧さんはちょいっと尻からげして、和尚さんの傘を一本持って、歩いて行きました。

和尚さんは、パカ、パカパカと行きました。小僧さんは、しょこ、しょこしょことついて行きました。

やがて、大きな川に出ました。

「小僧、川だぞ」

和尚さんは、馬に乗ったまま、バサ、バシャバシャと川をわたって行きました。小僧さんは、チャパ、チャパチャパと行きました。すると、すんだ水の中を、きれいな魚が、ちゅちゅちゅちゅう、ちゅちゅちゅちゅと泳いでいました。小僧さんは、

「和尚さん、和尚さん。いつも食べておられるおかみそりが、たくさん泳いでいますよ」

といいました。

「ばかっ。何があってもだまってついて来い」

「はあい」

和尚さんは、岸に上がって、また、パカ、パカパカと行きました。小僧さんは、しょこ、しょこしょことついて行きました。

やがて、またもうひとつ大きな川がありました。

「小僧、川だぞ」

和尚さんは、馬で、バサ、バシャバシャと行きました。小僧さんは、チャパ、チャパチ

ヤパと行きました。
川のまん中まで来たとき、和尚さんのたばこ入れが水に落ちて、ふわふわ、ふわふわ流れて行きました。小僧さんは、あっと思いましたが、和尚さんから「何があってもだまってついて来い」といわれていたので、だまっていました。
和尚さんは、岸に上がると、また、パカ、パカパカと行きました。小僧さんは、しょこ、しょこしょことついて行きました。ずいぶん来てくたびれたので、和尚さんが、
「ここらでちょっといっぷくしようか」といいました。
和尚さんは、馬から下りて木につなぐと、そばに腰(こし)をおろしました。小僧さんは、和尚さんのとなりにちょんと座(すわ)りました。和尚さんは、たばこをすおうとしましたが、たばこ入れがありません。
「小僧、小僧。わしのたばこ入れを知らないか」
「たばこ入れですか。ふたつめの川をわたるとき、水に落ちて、ふわふわ、ふわふわ流れて行きました」
「どうしてだまってたんだ」と、和尚さんがしかると、小僧さんは、
「でも、和尚さまが『何があってもだまってついて来い』とおっしゃったので、だまっていました」と答えました。
「ばかっ。これからは、馬から落ちたものがあれば何でもひろえ」
「はあい」
和尚さんと小僧さんは、また先へ進んで行きました。和尚さんは、パカ、パカパカと行きました。小僧さんは、しょこ、しょこしょことついて行きました。
しばらくすると、馬が歩きながら糞(ふん)をバサバサアと落としました。小僧さんは、馬から落ちたものは何でもひろえといわれていたので、かさをしゃっと広げて馬のおしりの下に受けました。馬が、バサバサバサと、どっさり糞をしたので、傘が糞でいっぱいになりました。小僧さんは、
「和尚さん、和尚さん。馬から落ちたものがこんなにたくさんあります」といいました。
和尚さんが、
「何だ」といってふり返って見ると、傘の中に馬の糞が山盛(やまも)りになっていました。
「ばかっ。川に持って行ってきれいに洗(あら)い流せ」
「はあい」

小僧さんは、傘を川に持って行って、きれいに洗うと、
「和尚さんは、洗い流せとおっしゃったなあ」といって、
「いち、にっ、さん」と、傘を放(ほう)りなげました。傘は、ふわふわふわふわ川を流れて行きましたとさ。

おしまい

村上郁再話

資料『近江の昔話』笠井典子編／日本放送出版協会